

果樹試験場かき・もも研究所成果発表課題 要約

1. カキ炭疽病の効率的防除対策の確立

(主任研究員 大谷洋子)

和歌山県内のカキ炭疽病菌は *Colletotrichum horii* が優占していた。地面に放置した発病枝では 1 年間以上病原菌が感染能力を維持し、伝染源となりうることが示された。保護殺菌剤および QoI 剤は生育期防除剤として有効であった。適切な薬剤選定と発病残渣の管理が重要である。

2. クビアカツヤカミキリに対する各種薬剤の殺卵効果

(主査研究員 弘岡拓人)

クビアカツヤカミキリに対する防除技術として、モモ枝のにおいを利用した効率的な採卵手法を開発した。本手法で得られた卵を用いて各種薬剤の殺卵効果を評価し、高い効果を示す複数の薬剤を選抜した。さらに発育段階別の薬剤効果差を明らかにし、薬剤選択に有用な知見を得た。

3. 極早生渋カキ「中谷早生」の早期軟化に対する軟化抑制処理の効果

(副主査研究員 岡橋卓朗)

「中谷早生」果実の収穫後の早期軟化対策として、低透湿性段ボール（以下、防湿 DB）とエチレン作用阻害剤 1-MCP（以下、1-MCP）の軟化抑制効果を 3 年間調査した。防湿 DB は効果が不安定だが、1-MCP は収穫始期から盛期まで有効なことが明らかとなった。